

城西大学 坂戸キャンパス 23号館（JOSAI HUB）、中央広場・回廊（JOSAI RING）

埼玉県坂戸市
設計・監理／日建設計
施工／23号館（JOSAI HUB）：清水建設 中央広場・回廊（JOSAI RING）：北野建設



すべての学生のための活動と交流の拠点「JOSAI HUB」



上／既存のけやきと学生の賑わいをキャンパスの顔に 下／既存各棟をつなぐ「JOSAI RING」は屋外の居場所としても機能する

HUBとRINGでキャンパス全体をつなぐ

「JOSAI HUB」と「JOSAI RING」は、講義室の建替え要望から始まり、キャンパス全体の再構築へと発展したプロジェクトである。文系と理系が東西に分かれて配置され、学生同士の交流が生まれにくく、居場所も不足していた。ここでは、大学の多様な特徴をつなぎ、新たな価値を創出すること。そして少子化時代を見据え、施設の拡張ではなく融合による再編を目指している。

すべての学生が利用できるキャンパスコモン「JOSAI HUB」を正門前に配置し、学部間の

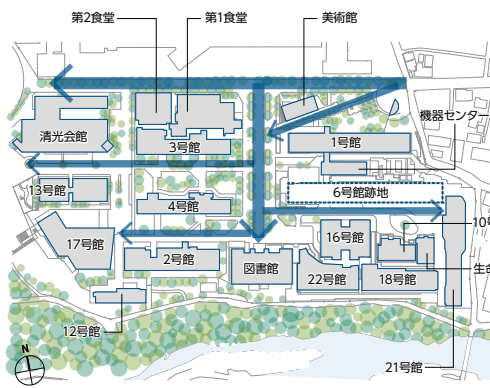
垣根を越えた交流を促進した。さらに既存建物を回廊「JOSAI RING」でつなぐことで、最小限のプロセスで動線を整理し、キャンパス全体に一体感をもたらすことができた。「JOSAI HUB」は正門から各棟へ向かう動線を設け、その動線上に様々な学生の居場所をぶどうのようにぶら下げた。約5,000㎡の開かれた空間に、学習エリア、カフェ、ラウンジなどを仕切りなく配置。活動の重なりと相互作用を促し、学生が自然に集い、交差する場を生み出す。不足していた学生の居場所を動線上に設けることで、学生がキャン

パスに滞在する時間が飛躍的に増えた。23号館完成後、取り壊した旧講義棟の跡地に、「JOSAI RING」と名づけた各棟をつなぐ回廊と中央広場を整備した。広いキャンパスの移動を雨や日差しから守り、学生の活動を支える。こちらにも動線上に半屋外の学生の居場所を配置することで、大小様々な居場所が屋内・屋外の垣根を越えてゆるやかにつながる。学生の活動の領域を重ねることで、活動はキャンパス全体へと広がっていく。屋内外問わず、どこにいても豊かな緑と広い空を感じることができる空間を目指した。「JOSAI

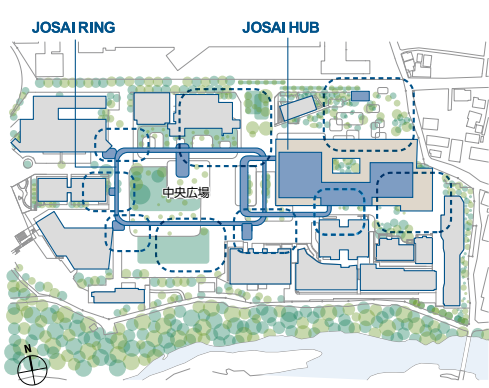
HUB」は360°すべての方向に開き、光環境も含めて徹底的に内外を連続させた広場のような居場所である。高層階もシンプルなプランながら廊下を歩く視線の先には必ず外の景色が見え正門や中央広場とのつながりを感じることができる。高低差の大きい敷地と既存樹を活かしながら、高さの変化で居心地が変わる立体的な空間が展開する。

このプロジェクトは、開校以来60年にわたり育まれてきた豊かな緑と既存施設を活かしながら、未来に向けた価値を創出し、郊外型キャンパスの新たな可能性を実現する再編モデルである。

（長尾美菜未／日建設計）



整備前 軸線の構成



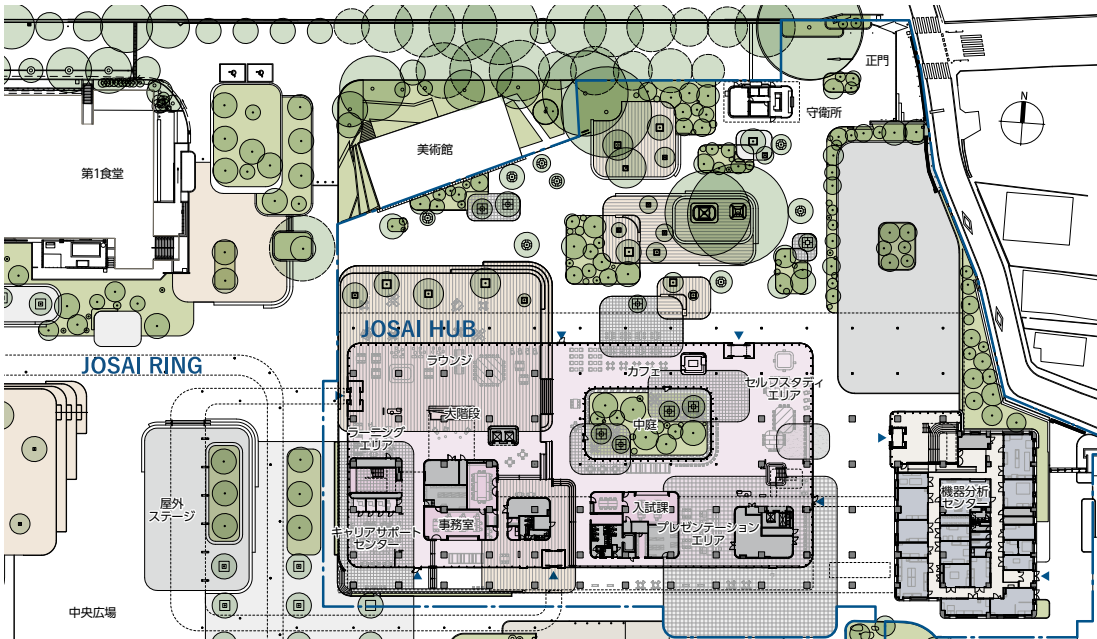
整備後 領域の重なり。屋内外の様々な居場所が重なり連鎖する



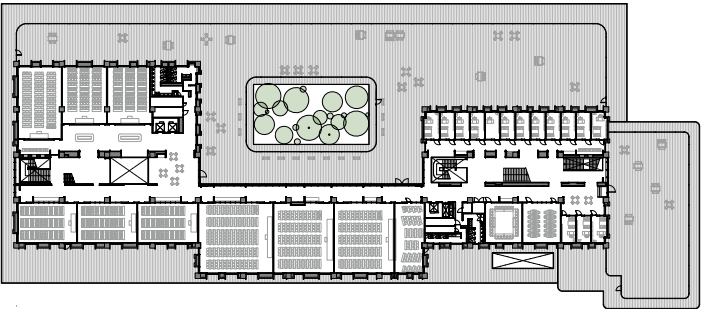
上／大きな庇の下の「JOSAI HUB」が外部にも連続的に広がる 下／広場のような動線上の学生の居場所



階段の流れに沿って東西に視線が抜けるスキップボイド



1階平面図 縮尺1/1,500



3階平面図

施工計画

坂戸キャンパスのメインエントランス直近に配置された本計画は、学生動線と教室エリア双方を確保しながら施工する計画であった。高層部分(1期工事) 竣工後に仮使用を行いながら低層共用部分(2期工事)の工事を行った。

学生動線計画について早期に計画および関係者



躯体工事全景を南東より見る

(写真提供：清水建設)

城西大学 坂戸キャンパス 23号館 (JOSAI HUB) データ

所在地 埼玉県坂戸市けやき台1-1

主要用途 大学

建築主 学校法人城西大学

設計・監理 日建設計

担当／建築：長尾美菜未、中本太郎、李 光赫 構造：今枝裕貴、猪田大介 電気：楠田貴昭、上野航暉 空調衛生：平田裕信、津野柚衣 ランドスケープ：倉本明典、竹谷朋浩 雨水排水：松本節男、高橋 舞 監理：相良武志(1期)、島田太郎(2期)、須永 聡(電気)、金 泰彦(空調衛生)

施工 清水建設

担当／建築：福井邦宜、齋藤博己、野瑞憲太、大野 篤、荒 香知、坂本祐樹、鈴木祐哉、山崎龍一、野中俊彦、森山 睦、永野誠一 設備：和田宗憲、遠田隼人、大谷 崇信(住友電設)、村越明德(高砂熱学工業)

設計期間 2019年6月～2020年5月

工事期間 2020年6月～2023年7月

【建築概要】

敷地面積 127,537.89㎡

建築面積 7,280.48㎡

延床面積 21,909.54㎡

建ぺい率 32.86% (23号館完成時点) (許容60%)

容積率 110.47% (23号館完成時点) (許容200%)

構造規模 RC造一部S造 地上7階、塔屋1階

地域地区 市街化区域、第一種中高層住居専用地域、法第22条区域

【学校施設】

学部構成 経済学部、理学部数学科、数理センター、理学部化学科

【主な外部仕上げ】

屋根 アスファルト防水、ウレタン塗膜防水、ウッドデッキ

外壁 コンクリート化粧打放し仕上げ、コンクリートチェー

の合意形成をするとともに、RC小梁部材のPC化や柱・梁主要部材の鉄筋先組することで、躯体工程の短縮と労務平準化を叶え、敷地内に高低差のある狭隘な敷地であったが、安全性・快適性を確保しながら工事を進めた。

革新的な意匠およびそれを叶えるための安全性確認のため、数多くのモックアップを早期に作成した。モジュール化された天井木毛セメント板・ランダムピッチを採用した階段手摺・R面を連続させた踏面PCなど、多くの労力と時間を割き、

施工三者の合意形成を行った。開学50年を超える敷地内には図面化されていないインフラ設備が数多くあり、掘削工事・仮設工事時には十分な事前調査を行うことでインフラ損傷を防いだ。特に薬学系の排水切替には慎重な協議と確認を要した。また、近傍を流れる荒川水系の一級河川、高麗川には現場周囲の公共雨水が直接流入するため、工事排水の適正処理

には細心の注意を払い施工を行った。

敷地内には記念樹をはじめ、保存樹木が数多く点在していた。枝ぶり、根の張り方に合わせて重機配置および動線計画することで狭隘な敷地での施工を樹木の保存と両立させ、豊かな外構計画を叶えた。

コロナ禍により多くの制限を受けながらの施工であったが、発注者、設計者および監理者とのコミュニケーションを重ね、多くの方のご協力のもと高品質な建物を完成させることができた。

(福井邦宜／清水建設)



福井 邦宜……ふくい くによし
1974年愛知県生まれ。1998年三重大学大学院工学研究科建築学専攻修了。同年清水建設入社。現在、同社東京支店工事長

【建築概要】

敷地面積 127,537.89㎡

建築面積 1,814.99㎡

延床面積 489.72㎡

建ぺい率 29.09% (中央広場・回廊完成時点) (許容60%)

容積率 94.78% (中央広場・回廊完成時点) (許容200%)

構造規模 S造 地上1階

地域地区 市街化区域、第一種中高層住居専用地域、法第22条区域

【主な外部仕上げ】

■回廊

屋根 鉄骨構造体＋溶融亜鉛めっき、金属屋根折板

柱 溶融亜鉛めっき

■庇

屋根 ウレタン複合防水、コンクリート化粧打放し仕上げ、コンクリートチェーン引き仕上げ

柱 溶融亜鉛めっきの上フッ素樹脂対候性塗料

外構 半たわみ性舗装、透水性舗装、ウッドデッキ、コンクリート平板舗装、アスファルト舗装、土系ブロック舗装、人工芝舗装

撮影／㈱エスエス



長尾 美菜未……ながお みなみ
1984年青森県生まれ。2007年宮城大学卒業後、日建設計入社。2014年スイス連邦工科大学MAS修士課程修了、2015年同大学客員研究員。2016年日建設計復職。現在、同社設計グループアソシエイト

協力会社

電気設備工事	住友電設
空調・衛生設備工事	高砂熱学工業
杭工事	ジャパンプイル
鉄骨階段工事	横森製作所
鉄筋工事・ラス型枠工事	西部スチール
生コンクリート納入	太平洋セメント販売
生コンクリート納入	飯能生コン工業
影張材(太平洋ハイパーエクスパン)	太平洋マテリアル
デッキプレート工事・金物工事	シマ建材工業
金属板金工事	三晃金属工業
ステンレス製建築自動ドアカーテンウォール工事	フルテック
打放しコンクリート面塗装仕上工事	セントラルコンクリート
内装工事・階段手摺金物	オクジュウ
内装仕上工事	栄和
OAフロア工事	センクシア
ロールスクリーン工事	ニチベイ
トイレブース工事	小松ウオール工業
サイン工事	KOYAMA
ウッドデッキ工事	昭和洋樽製作所



上層階とゆるやかにつながる家具のような大階段



ただの通路ではなく、学生の居場所として設えた上層階の廊下